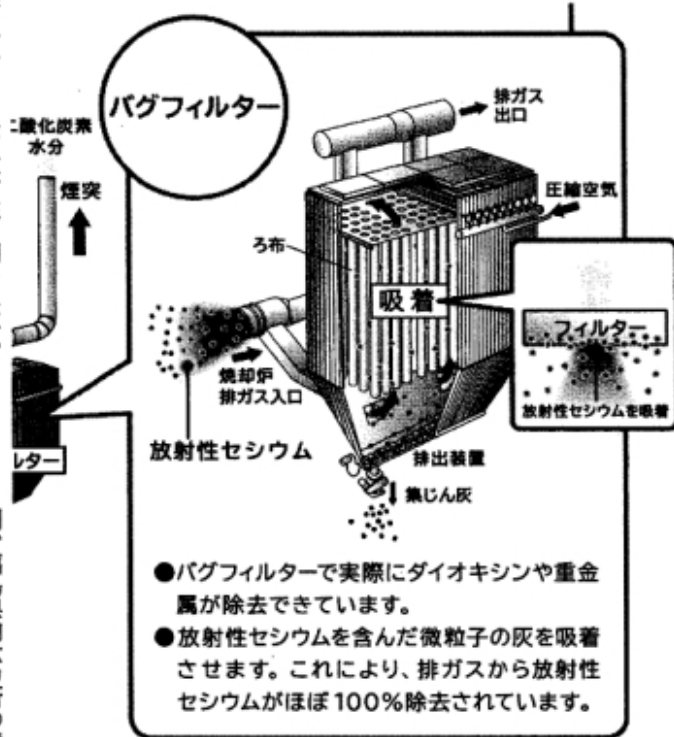


ちろ特報部

ダイオキシン対策で整備

フィルター本当に安全？



- バグフィルターで実際にダイオキシンや重金
属が除去できています。
- 放射性セシウムを含んだ微粒子の灰を吸着
させます。これにより、排ガスから放射性
セシウムがほぼ100%除去されています。

環境省自ら「不十分」は、放射性と同じになる
と認める状況下で、放射と考えていい。災害廃棄
能汚染がれきを燃やすの物を燃焼した試験は「こ
は「人体実験」ではない
時点では行っていない
が、災害廃棄物も通常の
可燃物なので、性状が都
市ごみと大きく異なるこ
ろと主張した。
環境省も「放射性セシ
ウム除去率は実際に99
%だった」と反論す
る。その根拠を尋ねる
と、同省が昨年十一月末
から十二月中旬までの

環境省のパンフレットでは、バグフィルターによって「排ガスから放射
性セシウムがほぼ100%除去されて
います」と紹介されているが…

間、福島県内六カ所の焼
却施設で測定した結果を
示された。そこには「除
去率99.92~99.99%」
とある。しかし、これ
は、バグフィルター付近
の測定結果から算出した
にすぎない。投入した
放射性セシウムの総量は調べてお
らず、実際にどれくらい
除去できていたのかは疑
問が残る。
福島県での処理方針

放射性物質 除去性能に疑問も



岩手県宮古市のがれき処理現場を視察する全国の自治体担当者ら—昨年11月

は、岩手、宮城両県の災している。そこで振りま
害がれきの広域処理にもいっているのが「バグフィ
ルター安全神話」だ。住
民向けのパンフレットにも、誰にも信用されな
い」と憤る。
岩手、宮城両県の災害 入りで「放射性セシウム
がれきは、通常の年間量 をほぼ100%除去で
る約二千万ト。東京都と シウムの放出を防ぎま
山形県が受け入れている す」と強調している。受
説明は直ちにやめるべき
だ。現在のよう、汚染
住民の反発で調整が難航 「無知」と言わんばかり
だ。
環境省は、広域処理の 「ごみ問題に詳しい環境
安全性を必死にアピール シャーナリストの青木泰
急に決める必要がある」

氏は講演会や著書など
で、「バグフィルター安
全神話」に疑問を投げか
けている。
「バグフィルターでは
ダイオキシンもすべて取
り切れないのに、原子レ
ベルの放射性物質が除去
できるというのは、サツ
カーのゴールネットです
球のボールを捕獲できる
と言っに等しい暴論だ。
焼却炉の煙突から放射性
物質が放出されれば、そ
の空気を吸った住民は内
部被ばくする」
検討会のあり方につい
ては「技術的な検討の場
を非公開にする理由は全
くない。本来は二三年
かけて検討を重ねなけれ
ばいけない問題だが、環
境省は、放射性物質が除
去できるという実際のデ
ータがないまま、がれき
焼却方針を決めてしまっ
た。方針を決めた後に実
験でつじつまを合わせて

東京電力福島第一原発事故の放射能に汚染された東
日本各地の焼却施設で連日、ごみが燃やされている。
岩手、宮城両県の災害がれきは地元では処理しきれ
ず、全国で受け入れる計画が進む。焼却施設から放射

性物質がまき散らされ、住民が2次被ばくする恐れは
ないのか。環境省は「安全」と言い張るが、その根拠
は薄弱だ。同省は昨年6月、実際のデータがないまま、
災害がれきの焼却処理方針を決めていた。(佐藤圭)

「見切り発車」の災害がれき処理

焼却ありき 密室で決定

可燃物については「十
分な能力を有する排ガス
処理施設」との条件を付
けた。「十分な能力」と
二つだ。

昨年六月十九日、東京
霞が関の環境省第一会
議室。非公開で開かれた
有識者会議「災害廃棄物
安全評価検討会」は、福
島原発周辺の警戒区域・
計画的避難区域を除く福
島県内の災害がれきの処
理方針を了承した。非公
開の理由は「表に出せな
いデータがある」(同省
廃棄物・リサイクル対策
部)だった。



有識者会議が判断の参考にした資料。議事録によれば批判
的な意見も出ていたとい

は、タイオキシシン対策で
染がれきを実際に焼却炉
整備された「ろ布式集じ
ん機(バグフィルター)」
と呼ばれる高性能の排ガ
ス処理装置のこと。タイ
オキシシン対策が放射能汚
染に通用するとは、にわ
かに信じ難い。

環境省 実証データなし 批判黙殺

「作成の「放射能を帯び
た災害廃棄物の処理に関
する検討」。ぜんそくや
肺がんを引き起こす可能
性のある「PM2.5」
という粒子状物質は、バ
グフィルターで「99.9
%以上(除去できぬ)」。
だから「(放射性セシウ
ムなどの)元素も捕集さ
れる」と報告している。
ただ、わずか四ページの資料
だけでは、その理由はよ
く分からない。

もう一つが「一般廃棄
物焼却施設の排ガス処理
装置におけるセシウム、
ストロンチウムの除去率
動」と題した論文だ。二
〇〇九年秋、バグフィル
ターを備えた「A自治
体」の焼却炉で測定した
ところ、セシウムの除去
率は「99.99%とい
う。だが、ここに登場す
るのは放射能を持たない
「安定セシウム」と「安
定ストロンチウム」。そ
れも放射能物質をデー

「被災地復興のため
には、がれき受け入れ
に協力することが不可
欠」。東京都の担当者
は本紙記者の取材にこ
う答えていた。都民の
不安や懸念に対して、
環境省のお墨付きがあ
るといふ事実にはさぞ心
強かったことだろう。
それが「根拠レス」だ
ったとすると…。ご都
合主義で振り回されて
はたまらない。(木)

デスクメモ

有識者のお墨付きを得
た環境省は六月二十三
日、この方針を正式決定
した。後日公表された会
議の議事録によれば、こ
れらのデータについて
「机上の仮定の数字が多
い」(酒井伸一・京都大
学環境科学センター長)

同省廃棄物・リサイク
ル対策部は「十分なデー
タはなかったが、方針は
すぐ出さなければならな
かった。ごみを燃やすこ
とができなければ都市生
活は成り立たなくなる」
と説明する。まさに「焼
却ありき」だった。